

わたしたちの思い描く未来の精華町
作品コンクール

【コンクール概要（共通）】

未来の精華町を担う子どもたちが、将来どのような精華町に住みたいか、どのような精華町に関わっていたいかということを、作品の制作を通じて表現してもらうことを目的としています。

【応募対象】

精華町に在住の小学校５年生、中学校２年生

【小学生の部】

○応募対象：精華町に在住の小学校５年生

○テーマ：「１０年後の精華町の将来設計図」

大人になった時（１０年後ぐらい）、精華町がどんなまちになっているか、自分ならどんなまちにしたいかを想像して自由に描く

○応募点数：２１０作品

【中学生の部】

○応募対象：精華町に在住の中学校２年生

○テーマ：「精華町とわたしの未来デザイン」

自分と精華町の将来の姿（約１０年後）を思い描き、どんなまちに住んでいたい、どんな風に関わっていたいかを想像して自由に描く

○応募点数：４７作品

※本資料については、中学生の部で応募のあった作文４７作品から、入選した５作品を掲載しています。

自分から十年後も精華町に住み続けたいの
であれば、こんな町になっ
てほしいと考
えることが三つあります。
一つ目は、今と変えら
ない自然が田園風景
が残っ
ていてほしいと考
えます。その理由と
して、小さい頃に
見た自然がその風景
がそのまま残っ
ていて、大人になっ
た自分から懐かしさ
を感じ、安心でき
るような気がする
からです。また、
新型コロナウイルス
の感染拡大による
在宅ワークなどの
新しい働き方が
見直されて、今、
精華町の美しい
自然が田園風景を
眺めながら仕事
ができるのも良
いのではないか
と思います。だから、
自分は精華町の
美しい自然が田
園風景をいっ
までも残し
ていっ
てほしいです。
二つ目は、若い
年齢層の人たち
が住みこ
とで町に活
気が生まれる
と思うから
です。自分か
将来ど
こに住むかを
考えたとき、
第一の条件と
して

は仕事に行きやすい場所、もしくは仕事をし
やすい場所を選ぶと思います。また、買い物
などに出かけやすい場所になると思います。
つまり、交通の便が良く、商業施設などがあ
る程度近くにあることが大切なのだと考えま
す。今現在でも充分かもしれませんが、さら
にこれから未来を考えると、精華町内もし
くは周辺にさらに高速道路が建設されたり、
リニア新幹線が開通したり、小さな空港がで
きたりすれば、精華町の魅力がさらに上がる
のではないかと思います。
三つ目は、ここに住み続けたいと思える町
になつてほしいと考えます。住み続けたいと
思つてもらえる町が一番素晴らしいものだ
と感じます。そのためにも治安や防災など町の
安全性が重要だと思います。夜は街灯で明る
いか、犯罪がよく発生する町ではないかなど
住むことについては大切なポイントです。
で、すか、その点精華町は街灯などの明かりをよ
く見かけける他、犯罪などが少ないように感じ

ます。また、防災面でもハザードマップが指定場所があるのですね。これらから、自分には精華町を誇りに思っています。いさ、良さを魅力をも発信して、十年後にもさらに自慢できる町になっと思っています。ほしいで。

「VRをつなかる新しい社会に」
未来の精華町では、どのようなことができるようになるか。そして、どのようなことが当たり前になるのだろうか。私は、この疑問と、学校での総合的な学習を結び付けて、様々な境隅の人々が互いに即け合える町づくりについて考えてみた。

私は、去年の冬に、学校の総合的な学習の一環として、南山城支援学校に訪問し、障がいのある人達と交流をした。今まで障がいの

ある人と関わったことがほとんど無かった為か、彼らは自分とは違う異なった存在という偏見を抱いていた。しかし、いざ実際に彼らと交流してみると、私が思っていた程異なっていないなかつた。彼らができないことを私達か少し補えば、普通に交流ができるのだ。私は自分の偏見を恥ずかしく思った。この経験から、さらに彼らと関わる機会を増やしていきたいと考えた。だが、私はこの訪問以来彼らと交流する機会をもっていない。私には

日常的な彼らとの接点かほとんど無いのだ。どうすれば彼らとの接点か生まれるのか、そう考えていたとき、私は昔見たとあるアニメを思い出した。そのアニメには、体をほぼ動かすことができない少女が登場する。その少女は、特別な装置を使って、VRのゲームの世界に入り、自由自在に生きていた。そして主人公と出会い、友人となり、一緒に冒険していった。このアニメのように、仮想空間に交流できる場所があれば、障がいの有無に関係なく、気軽に交流ができるのではないだろうか。まるで夢物語のような話だが、既にVRのゲームも存在している。そう考えると、遠くない未来に実現可能なのではないだろうか。私達の精華町は、けいはんな学研都市である。つづは、産・学・官・住の多様な主体が相互に連携し、高め合いながら、未来を拓く知を創造する都市なのだ。それならば、新しい交流の場が精華町から生まれるべきではないだろうか。VRの世界というと、単なる遊

びの世界で、現実逃避の場所といったイメージが強いように思う。しかし、使い方によっては、物理的な障害物を越えていける一種の場となる。例えば、私達の学校と支援学校とで、合同授業をすることもできる。仮想空間で、文化祭や体育祭のようなイベントもできるだろう。このような定期的な交流を行うところかできれば、私が最初にもっていたような偏見をもつ人は確実に減るだろう。私達は、もっと簡単につながれるし、もっと簡単に助け合えるだろう。未来の精華町は、このような新しい人と人とのつながりをリードしていくような町であってほしい。そして、私もそれに何らかの形で関わっていけるような人になりたい。

精華町を人が溢れる良い町に

私の住んでいる町、精華町は、10年後観光客が増える、たくさんの方が住みやすい町に
なっていると思います。このように町
にするために考えたことを三つ述べていきま
す。
まず一つ目は、大型施設などで、工夫する
ことです。精華町ならではの店や、お客さ
んが安心して、使いやすい場所にするこ
とです。例えば、精華町産の食材を使った料理店
を出したり、店のそうじや、設備を整えたり
することです。たくさんの方に来てもらうこと
ができるのだと思います。また、お金と土
地に余裕があれば、子どもから大人まで、み
んなが楽しめるような大型施設を建設するこ
とも提案としていいと思います。人は自然と
珍しいものや、綺麗な所に目がいく傾向があ
ります。なので、このような工夫をすればよ
いと思うのです。

二つ目は、行事・地域交流の参加を増やすこと、行事を増やすことです。増やすことは難しいですが、実現できれば、町の進歩につながると思っています。そして、行事・地域交流に参加する人を増やすことです。年々行事や地域交流に参加する人が減っている傾向があります。ります。参加する人が増えれば、町おこしにもなり、伝統を守ることができると思っています。地域のボランティア、地域の自然を保持したり、精華町の大会イベント、精華祭りでの伝統を残したりと、町のみんなが一つになっ、行うことが大切だと私は考えました。三つ目は、PRです。私は、精華町は町のPRがあまりできていないと思います。精華町に住んでいるのに、あまり特徴を知りません。どんなことが有名なのか、精華町の郷土料理など、知らないことがたくさんあります。それは私の周りの人も同じでした。精華町に住んでいる人、観光客の人たちに、精華町について知ってもらうにはどうしたらいいだろう。

そこで私は考えました。SNSを使ったPR
をすることです。Twitter、Instagram、
YouTube、TikTokなど、町の良い
所や、有名なものを紹介したり、精華町
の広報キャラクターが、町のいい所をPRし、
その動画をSNSにあげるなど、今の精華町に
あるものを使ったりして、SNSをより多く
使い、町をたくさんの人に知ってもらった
り、いいと思います。芸能人の人を呼んでPRし
てもらうのも一つの案です。最近、ネット

が発達しており、若い世代から年配の方まで
多くの人がSNSを利用しています。こんな
今だからこそ、流行りに乗って、精華町を知
ってもらうことができるんじゃないでしょうか。
最近、様々な機能がついていっているのだ
よ。利用するべきだと思います。正しい使
方で、精華町を盛り上げられると思います。
このように、10年後、観光客や住民が増
えるように私は三つの提案を考えました。

高齢者が活躍する町

現在、日本はものすごいスピードで少子高齢化社会に進んでいます。私はこの少子化という部分では問題があると思っています。人口が減ると働き手は少なくなり、日本の活力も減りしていくからです。高齢化についてはもちろん問題があります。しかし、高齢者が持っているたくさん人の積み上げた能力を使える場をたくさん作り、活躍^{活躍}していける社会にする

ことが問題軽減になると思っています。日本は世界でも一、二を争う長寿国です。しかし健康年齢は、女性74歳に対し平均寿命は81歳、男性は健康寿命72歳に対し平均寿命は80歳です。10年の年の差があります。課題として、寿命の長さだけでなく、その質の向上が必要です。心身とびきるだけ健康に保ち社会に接する事で潤う社会がびきると考えました。

精華町は関西文化学術都市であり、様々な問題に対して研究を行っています。医療技術

などの科学生活文化研究もその一つです。健康長寿に對しての研究もおこなわれているようにです。食や物の研究や運動の研究などもして作ります。高齢者の社会との関わりをいかにして作り出すかを課題にしています。私は将来医療系に進みたいと考えています。やはり高齢者とのかわりかわくなると思います。まず、病気になる前の健康寿命をどうしたら伸ばしていけるのか。それに関われるような仕事をしたいと思っています。精華町に

住んでいる。高齢者の趣味やしていた仕事などについて。高齢者の社会参加を待つだけでなく、こちらから声をかけて行ったりするところ。社会参加を促さると思います。また、高齢者を孤立させない取り組みが必要だと思います。います。もちろん社会参加したくない高齢者もいます。いろいろか、必要とされない事こそ、辛いことではないのではないかと今は考えます。高齢者の現状をたくさん知り、日本おいてなく海外の取り組みなど勉強していくな事か。

後の私には必要な事だとも思います。日本は、
本人が、最後の方針を決める割合が低いとも
いわれています。今後は死に対する考え方が
変化していく時代に入っ、ていくとも思います。
納得いく生き方ができるように手助けできた
らと思います。高齢者が社会参加をすること
で、子供から高齢者までつながりのある暮ら
しをしていける町である事を私の理想の町で
す。そのために自分ができる事を考えていきま
す。と思います。

「精華町とわたしの未来デザイン」

私の考える精華町とわたしの未来デザインは、一言で表すと「繋がり」です。この「繋がり」はいくつもあります。

まず、私と精華町についてです。中学校を卒業してから、高校、大学を卒業し研究する仕事のある精華町内の企業に勤めたいと思います。これが一つ目の「繋がり」です。これは、自分の地元で働くという繋がりです。

そして、出勤するときは、歩いていくことができて健康的な生活が送れるようになったり、時間がないときや雨の日などにも利用できるといふようなりんバスなどの精華町内をピンプointで走ってくれるような手段も通勤・通学の時間も含めて使えるようになっていて欲しいと思います。これが二つ目の「繋がり」です。同じバスに乗る人で何気ない短い会話が生まれるきっかけになっていっていると思います。休日にも車を使って出かけるときに今ある

大きな道路や鉄道の繋がっている京田辺市や木津川市だけでなく、精華大通りのような道路や鉄道が奈良県や大阪府の方向にまで出て周りの地域にも行きやすい町になって町外に出るのも町外から来てもらいやすくなっていると思います。三つ目は、これらのような周りの地域との「繋がり」です。

そして、今あるキャラクターや華だけでなく、その他の特産品を取り上げていっていると思います。例えば、小中学校などで受けて

いる精華町内にある企業の方からの出前授業もただ聞いて学ぶだけでなく、小中学校から他の場所へと発信することができます。そして、学研都市の精華町として精華町の魅力が伝わっていると思います。これが四つ目です。学研都市と子供、そして全国との「繋がり」です。

さらに、子供から大人そしてお年寄りまでが仲良く生活できるようになっていていて思っています。具体的に言うと、平日に自分達を

含む働く世代が働いているときにお年寄りや
子供が放課後に立ち寄れる集会所などの場所
でのコミコニテイの場がたくさんあると思
います。これが五つ目の全世代の「繋がり
です。

何よりも一番十年後でも大切であってほ
しいと思うことがあります。それは、自然につ
いてです。どういうことかと言うと、今は、
自然と技術がバランスよくありますが十年後
でも自然あふれる精華町であってほしい
ということです。

これらのような「繋がり」が十年後の精華
町にあふれていてほしいと思います。そして
そんな町であれば、たくさんの方が気持ちよ
く住み続けられ、住みたいと思われ続けられ
ると思います。